

令和2年2月24日

日光市議会議長 斎藤伸幸様

日光市議会議員 山越梯一

## 議員派遣報告書

目的 (会議等の名称)	決算状況「歳出」・決算状況「財政収支」
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター 住 所：東京都中央区八重洲1-2-16 TGビル
期 間	令和2年2月5日（水）～6日（木）
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	<p>研修の講師は、2日間とも立命館大学政策科学部教授の森博之氏。略歴には、財政学とくに地方財政と公共事業と記されている。</p> <p>初日の研修は、決算状況「歳出」について。決算カードの見方から始まり、令和2年度地方財政対策のポイントや地方歳出の重点項目等の説明。目的別歳出と性質別歳出の違い、どのような経費がどの歳出に分類されるか、特に性質別歳出は自治体の財政状況を分析するうえで不可欠なものとして指摘がある。参考に他市と類似団体との目的別歳出</p>

の比較や性質別歳出比較表で具体的な説明を受ける。

「PFIの考え方」の説明があり、事業導入時には「直営事業」との「良い点・悪い点」を比較し決定することが重要であると感じた。

2日目は決算状況「財政収支」について。ある自治体財政の「収支状況」を区分ごとに見ながら実質単年度収支の出し方を説明された。さらにこれを家計での考え方に置き換えて話がされた。その他、全国赤字団体の状況、実質単年度収支の調整状況、地方財政における基金残高の推移など、グラフを用いた説明を受ける。

最後に財政収支の分析から特徴あるいくつかの市の紹介がされ、その内容を聴く。その中に平成の大合併で誕生した自治体面積2位の市があった。人口約81万人、一般会計の予算が約2,900億円の政令指定都市でありながら、公共施設の20%削減を行い財政負担を減らす一方で、市民の一部から生活が不便になったとの声が発せられているとの話であった。

日光市公共施設マネジメント計画の推進に想いを馳せながらの研修となった。